# 第２回　次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を実現する有識者会議

【子供の目指す姿】千葉の教育の力で、志を持ち、未来を切り開く、ちばの子供を育てる

**－論点の提示－**

2019.5.30

放送大学　岩崎久美子

放送大学

---

# 論点として取り上げるもの

- OECDによる「効果的な学習環境の七つの原理」を下敷きに「ちばの子供」の育成における創発的視点の提示（試み）。
  - １．知識の効果的学習
  - ２．生涯にわたる学習者の育成
- 「１．知識の効果的学習」：知識を「知的知識」と「知恵に関わる知識」として整理➡「知的知識」（情動への配慮）、「知恵に関わる知識」（現実社会における学習）。
- 「２．生涯にわたる学習者の育成」：自己決定学習が可能となる「学習自律性の確立」の育成。

# １．総論：効果的な学習環境の七つの原理（OECD）

①学習者を中心とする

②学習の社会性を重視する

③感情が学習にとって重要である

④個人差を認識する

⑤すべての生徒を伸ばす

⑥学習のアセスメントを活用する

⑦水平的関係をつくる

**１．知識の効果的学習**

（１）知的な知識
：情動への配慮

（２）知恵に関わる知識
：現実社会における学習

**２．生涯にわたる学習者の育成**

学習自律性の確立

出典：OECD教育研究革新センター編著（立田慶裕・平沢安政監訳）『学習の本質』明石書店　2013, pp.396-399.の七つの原理を三つの観点に関連づけて整理。

# 各論１：知識の効果的学習（二つの知識）

| | 知的な知識 | 知恵に関わる知識 |
|---|---|---|
| 性質 | 量的 | 質的 |
| 目標 | 新しい真実の発見 | 既存の真実が持つ意義の再発見 |
| アプローチ | 科学的、ロゴス | 精神的、ミトス |
| 時間的制約 | 制約がある | 制約がない |
| 範囲 | 自己中心的 | 普遍的 |
| 獲得の手段 | 学習から獲得 | 認知と内省との結合から獲得 |
| 加齢との関連性 | 逆U字曲線 | 潜在的に正の相関 |

出典：Ardelt, M. 2000, “Intellectual versus wisdom-related knowledge: The case for a different kind of learning in later years of life ”. *Educational Gerontology*, 26, 1-15.を摘記し一部改編。

【参考】認知能力、非認知能力

# （１）知識の効果的学習（知的な知識）：情動への配慮

**【脳科学からの記憶への知見】**

扁桃体（快・不快）→海馬に伝達

扁桃体と海馬間の情報交換→最終的に海馬が判断し大脳皮質に情報伝達”

**【心理学者ヴィゴツキーの言葉】**

“情動的に色づけされた事柄はより強くしっかりと記憶される。情動的反応こそが教育の基礎。…感情を経由した知識のみが定着、残りのすべては世界とのあらゆる生き生きとした関係を失った死んだ知識。”

（レフ・セミョーノヴィチ ヴィゴツキー (柴田義松／宮坂琇子訳)『ヴィゴツキー教育心理学講義』新読書社　2005.）

**【動機づけからの知見】**

学習活動への肯定的感情の経験
　→強い動機づけ

学習活動への否定的感情の経験
　→学習忌避

M. ベカルト「教室での学習において、動機と感情が果たす重要な役割」OECD教育研究革新センター編著（立田慶裕・平沢安政監訳）『学習の本質－研究の活用から実践へ』明石書店　2013.

1.好ましい環境での学習活動
2.情動コントロール

# （２）知識の効果的学習（知恵に関わる知識）：現実社会における学習

- 文化的コモンズ（地域の共同体の誰もが自由に参加できる文化的営みの総体）地域資源の教育利用

文化拠点、NPO、図書館、自治会、地場産業、地域伝統産業、文化団体、まちづくり団体、公民館、商店街、おまつり、神社仏閣…

（財団法人地域創造『文化的コモンズの形成に向けて』平成26年3月）

- 自然体験

問題解決型学習の導入

“学校を社会から隔離した空間にしないためには？”

学校と社会とのインターフェース：
アドバイザー・コーディネーター

- 教育課程への組み込み（IB／DP)

　国際バカロレアCAS「創造性」「活動」「奉仕」(週あたり半日程度（3－4時間）計150時間

ー社会福祉団体、公共医療施設、政府機関

ー大使館や領事館

ー奉仕団体

ー環境グループ

ー若者グループ、スポーツクラブ、演劇や音楽、芸術関連のグループ

ー多国籍あるいは地域の商業活動や産業活動

ー「アムネスティ・インターナショナル」、「赤十字」、「エディンバラ公賞」、ＹＭＣＡ、ＹＷＣＡ、「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」など。

（IBO『「創造性・活動・奉仕」（ＣＡＳ）指導の手引き』p.21から抜粋）

# 各論２：生涯にわたる学習者の育成
# ー学習自律性の確立

マルカム・ノールズ（米国の成人教育学者）

①自己決定的
②経験が学習資源
③社会的役割（発達課題）の遂行
④即座に応用できるもの・問題解決
⑤内発的動機づけ
⑥学ぶ理由を知る必要性

→ 学校教育に盛り込むべき視点

【参考】デシとライアン（Deci E. L. & Ryan, R. M.）：「内発的動機づけ」（「知的好奇心」＋「自律性」）

出典：Knowles, M.S. *The Modern Practice of Adult Education: From Pedagogy to Andragogy*, (2nd edition) Cambridge Books, 1988, ノールズ, M.S.(堀薫夫／三輪建二監訳)『成人教育の現代的実践：ペダゴジーからアンドラゴジーへ』鳳書房, 2002.

# 学習者に応じた支援

| 段階 | 学習者 | 指導者 | 例 |
|---|---|---|---|
| 第１段階 | 依存 | 権威者・コーチ | ・随時フィードバックによるコーチング<br>・ドリル、情報提供的講義<br>・欠点や抵抗の克服 |
| 第２段階 | 関心 | 動機付け者・ガイド | ・学習を動機づける講義に加え指導的な議論<br>・目標設定と学習戦略 |
| 第３段階 | 関与 | ファシリテータ | ・対等の立場に立つ教員によって促される議論<br>・セミナー<br>・グループによるプロジェクト |
| 第４段階 | 自己決定 | コンサルタント・委託者 | ・インターンシップ<br>・学術論文<br>・個人学習<br>・自己決定的学習グループ |

注：ファシリテータ：中立な立場で深い議論がなされるよう調整する役割を負った人。
出典：Gerald O. Grow, “Teaching Learners to be Self-directed”, *Adult Education Quarterly*, Volume 41, Number 3, Spring, 1991, pp.125-149.

# まとめ：千葉の教育力への期待

**１．知識の効果的学習**

- 知識を「知的な知識」と「知恵に関わる知識」に分類：「知的な知識」→情動への配慮／「知恵に関わる知識」→現実社会における学習（地域資源の活用、現実社会での学習機会、自然体験などの経験資本の拡大）。

**２．生涯にわたる学習者の育成**

- 自己決定的学習が可能となる学習自律性といった資質・能力の育成。
- 学習に対する肯定的経験→内発的動機づけ。
- 必要に応じて学習できることが変化する社会のサバイバル・ツールの一つ。

：学習を行う意欲・内容の格差→効果・利益の格差（雇用の確保や維持、人生の豊かさ）。

【参考】“知識労働者たる者は、仕事の中に継続的学習プロセスを組み込んでおかなければならない。”（P.F.ドラッカー）

---

- ご清聴ありがとうございました。

Kumiko_iwasaki@ouj.ac.jp